
魚の話

梅雨子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魚の話

【著者名】

NZマーク

N7923E

【作者名】

梅雨子

【あらすじ】

昔、近所に住んでいた田口さんが飼っていた魚が喋っていた話。

昔、近所に住んでいた田口さんが飼っていた魚が喋っていた話を思い出した。

「最近さあ、思うわけよ、おれこんな水槽の中で一生を終えるんかなあつてさあ。ただでさえ寿命長くないわけだし、ハロー広い世界！つて飛び出してもいいと思うんよ。」

僕はその台詞に肯定とも否定ともどれるような、いい加減な相槌を返したのを覚えている。

「何か、あれじゃんね。死んでお星様になるとか言つけど、実際ならないからね。いや、どうかは知らないけど。でも、なりそうになくな？絶対死んだら、何の意識もないよ。今こいつして喋つていることもパンの耳がご飯だつたことも水槽の水を綺麗にするとき流されかけたことも全部ぜんぶ忘れて消えちゃうと思つよ、俺は。」

倒置法を使うなんて中々な魚だな、とほんやり論点の違つことを考えていたが、相槌を返さないと直ぐに怒り出す多少気の短い魚だったので、僕はそれもまたテキトウになまら返事を返した。

「でもさあ、俺が死んでも、多分お前とか、田口さんとか俺のこと覚えててくれるんじやんか。だから別にこの水槽の中で死んでもいいかなとも思えるわけよ。よく言つじやん、天国で幸せに！つて。でも、本当は天国じゃなくて、周りにいた人たちの心の中にいくと思うよ？死んだやつが分散しまくって心の中に行くと思うんだ。分散してるから陰とか存在とか薄くなっちゃつて、たまに忘れられちゃつたりしちゃうけど、ちゃんとそこにいるからたまに思い出してもらえたり、感傷にひたつたりするんだと思うよ。いや、どうか知らないけど。」

いやにその日は天気がよく、僕は太陽の光のせいで目がチカチカしていた。その魚がいる水槽の水はキラキラと輝いていて、魚の鱗も

キラキラなんかしちゃって、おーおいこれは何だ、とおかしくなつて思わず笑つてしまつた。「何、お前笑つてんの」と魚に気味悪がられたが、魚も顔が一ニヤニヤと笑つていたので僕はとうとう声をだして笑つてしまつた。

上京して数年がたつた天氣の良い日、僕は、昔、近所に住んでいた田口さんが飼つていた魚がは元氣だらうかと、ふとその話を思い出した。何となく僕は感傷にひたつていて、「ああ、もしかすると」と思い、そのまま壁に身を預けて暫く目を閉じていた。

魚の話

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7923e/>

魚の話

2011年1月27日08時46分発行